

今号は甲州道特集！関係の深い矢倉沢通も紹介

やぐらさわどおり 矢倉沢通 と 甲州道



．．．足柄峠を越えて 矢倉沢通

足柄峠を越えるルートは一般的に足柄路（現在は足柄古道とも）と言われていました。江戸時代には足柄路の一部が整備されました。これは矢倉沢地方（南足柄市）を通り足柄峠につながるの、**矢倉沢通（矢倉沢往還）**と呼ばれたようです。江戸幕府の調べでは、足柄峠～御殿場～神山～深良～佐野～平松新田～伊豆島田を通って宿場町である三島へと通じていました。一方、佐野村からは二ツ屋新田～上土狩～本宿から宿場町の沼津へ通じる「横往還沼津道」という道があり、当時の人々はこれらの道こそ矢倉沢通だと考えていたようです。

雨乞い信仰で有名な大山阿夫利神社（伊勢原市）に参拝する”大山参り”が市内でも行われており、こういった参拝人や富士登山に向かう人々が利用する信仰の道でもありました。

甲州道 沼津から郡内まで塩を運んだ道

江戸時代中期以降は甲州の郡内（富士吉田地方）の人々が塩・海産物を求めて沼津地方へ盛んに訪れるようになります。甲州の人の活発な往来により、その道は**甲州道・甲州路（塩の道）**とも呼ばれたようです。甲州道と横往還沼津道は一部重なっています。矢倉沢通と甲州道は市内で合流し、また分岐して関東方面、山梨方面につながります。

甲州からは雑穀、材木がもたらされ、沼津からは塩、海産物が運ばれました。商人によって市内でも飴、さつま、とうがらし等が売られていたようです。

当時のみちしるべ 右奴ます道…

伊豆島田にある深良用水・三俣堰のやや上方には、馬頭観音に刻まれた道標があります。

文化10（1813）年のもので、正面に「右奴ます道 左三し満ち道」とあり、沼津と三島に向かう分岐点に置かれたことが推測されます。



左 三し満ち道

右 奴ます道

古道編

楽しい郷土史だより 第8号

平成31年2月 裾野市文化財保護審議会・裾野市教育委員会生涯学習課

「楽しい郷土史だより」では、裾野市史を例にとり裾野の郷土史を紹介してきました。今回からはテーマを一新し”裾野市内の古道（昔から使われてきた道）“についてお伝えします。

なお、裾野市内には主な古道として、矢倉沢通・甲州道・根方道・十里木古道などが存在したと考えられます。社会の変化により完全な特定は困難なため、主な研究対象を江戸時代以降に絞り、現存する資料や石造物などから裾野市文化財保護審議会にて推察した結果を紹介いたします。

人とくらしをつないだ古い道

裾野の古道あらまし

裾野地域は、富士山の南東麓にあり、東・西・北の三方を山に囲まれてはいますが、北の足柄峠を超えれば関東に抜けることができ、交通上の要地に位置します。

7世紀以降、中央集権国家を目指していた朝廷は、街道の整備に力を入れます。九州から関東まで大規模な街道整備が行われるとともに、各地に駅が置かれるようになります。駅には人が常駐するとともに馬が常備され、人々は駅に沿って行き来しました。

裾野市の近くでは、長泉付近に長倉、御殿場に横走、という駅があったようです。

図表4-6 伊勢参りの図(渡辺慎一「回想の記」渡辺公一氏所蔵)



（「裾野市史第八巻」784頁より引用）



図表3-45 近世交通要図

（「裾野市史第八巻」543頁より引用）

※矢倉沢通の名は本地図上には見られません

江戸時代以降、社会が安定し経済的余裕ができる、多くの商人や伊勢参りの人などにより、街道はにぎわいを見せていたようです。

しかし、江戸幕府によって、吉原から沼津、更に三島を通り箱根を抜けて小田原へ至るルート（東海道）が整備されると、比較的安全に通行できるこの道が人々に好まれました。市内の道は物資の輸送路や信仰のための通行路として利用されました。

甲州道・矢倉沢通 市内南部の見どころ (幕末～明治)

参考文献：矢倉沢通見取図第二巻（監修：児玉幸多、発行：佐々藤雄）、
 裾野市史第八巻、第九巻（編集：裾野市史編さん専門委員会、発行：裾野市）
 裾野の石造物上・中・下（編集：裾野市史専門委員会、発行：裾野市教育委員会市史編さん室）
 郷土読本「すその」第5訂版（改訂編集：郷土読本「すその」改訂編集委員会、刊行裾野市教育委員会）

④ 甲州道・矢倉沢通の交流点付近

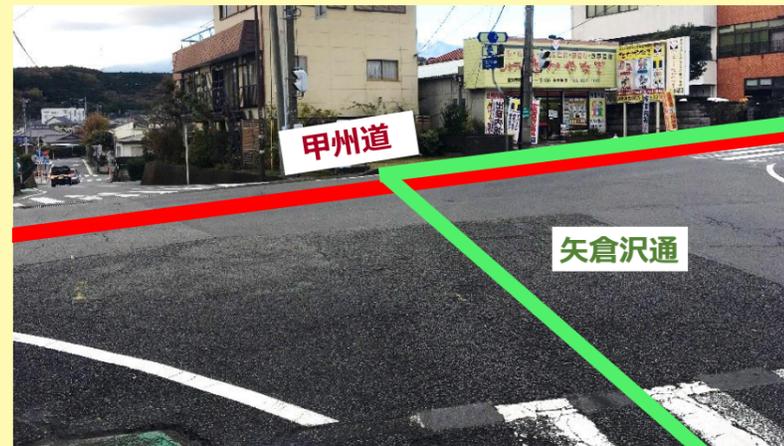
道路幅が広くなり整備されていますが、今なお昔の面影を残しています。



a. 昔の面影を残す、矢倉沢通
 (④の南側、スーパー裏・駐車場横)



b. aを北上した場所
 (裾野駅前通との合流点)



c. 甲州道と矢倉沢通との合流点付近
 (佐野二本松交差点)

③ 飴屋踏切 (あめやふみきり)

現在は廃止された踏切で、裾野警察署南側の「飴屋ガード」にその名が引き継がれています。この踏切跡近くに「飴屋」の屋号を持つ家があります。

ご当主にお話を伺うと、かつてその家は2本の街道に挟まれた便利な場所にあり、よく商人を泊めていたそうです。その中で飴売りの人が長く泊まっていたことから、誰ともなく「飴屋」と呼ぶようになり、その後屋号としたということです。その家よりも踏切に近い家があったのに、どうして踏切の名前になったのかはわからないそうです。当時の街道の往来がしのべれます。



北部(深良・岩波方面)は次号掲載予定です

- 甲州道 (横往還沼津道)
- 矢倉沢通
- 河川
- ◆ 道祖神 (サイノカミ)・庚申塔
- ▲ 馬頭観音・地藏菩薩



② 水窪村入口付近の石造物 (水窪 140 番地付近)

どうそじん じぞうぼさつ
 道祖神や地藏菩薩が並びます。

道祖神は村境の守り神として、また交通安全を願って造られることが多かったため、ここが、かつて街道沿いであったと予想されます。ただし、道路拡幅などで石造物は移動されている可能性もあります。



① 市内甲州道の始点

この辺りが長泉町との境界となり、裾野の甲州道が始まります。近くの「長泉町上水道第二浄水場」が目印になります。



©裾野市

【編集・発行】裾野市文化財保護審議会・裾野市教育委員会生涯学習課

深良 435 番地 TEL055-994-0145 FAX055-992-4047

当パンフレットは、市役所、生涯学習センター、鈴木図書館、市民文化センター、ヘルシーパーク裾野に配架しています。また、市公式ウェブサイトでも公開しています。



ウェブサイト▲